

るようにする。「不安」「心配」にも通じる手まね。胸騒ぎする、胸を痛めると云う内部表現。

油(膏) 頭髮を撫で降して、その手の親指に他の四指の指頭をつけては離しする。ねばっこい油を扱う手の表情。

溢れる 五指の指頭を前方にさし、掌を右に向けた左手を少しまるく彎曲させて、池の堤か或は器のふちを形どり、それにかこまれるように五指の指頭を左にさし、掌を上向けた右手を水面として、それを上へふくれ上がらせ、堤(器)から溢れ出る描写身振。

あぶれる(仕事に) 頸を手で切るように打って、両腕をだらりと下げて、両手を交互にぶらぶらさせる。首を切られて、仕事なくぶらぶらしていること。ルンペン、失業者ともなる。

あべこべ 両手の拳の一方を前額部に、他

方を後頭につけ、頭の周囲にそって、ぐるりと両手の位置をかえる。帽子を「あべこべ」に被ったこと。

阿呆 五指の指頭を上にはさし、掌を左に向けた右手の親指の指頭を鼻頭の上につけたまま、他の四指を交互に左右にこまかく動かす。これはサーカスのピエロがよくするふざけた身振りで、阿呆(馬鹿)と云うより、人に「阿呆よ」とからかう場合に使う手まね。

尼 「僧侶」の手まねを女性で表わせばよい。

甘い 手についた砂糖をなめる模倣身振り。即ち舌を出して、その上へ掌を持って行きなめるようにする。「砂糖」の手まねに通じる。

余る 五指の指頭を前方にさし掌を右に向けた左手に向かって、五指の指頭を直角にさし、掌を内側にした右手を接近させて、左手

の上を越させる。左手に向かつて直角に右手が突き当って止まるのは、「終止」を意味するが、それを行き過ぎして、左手の上を越えさせるのは、即ち「余分」に出たことになる。

編物 両手の人差指を編物の針になぞらえて、毛糸を編む指先の運動。

飴 舌を口の中でねじらせて、片頬をふくらませて、人差指と親指で輪をつくり（他の三指は伸ばしたまま）その頬にぴったりとあてがう。頬ばって飴玉、その丸い飴玉が頬のこのところにあると云うこと。

雨 **雨降り** 頭部のやや上辺りから、指頭を下に垂らした両手を下へ降す運動を二三度くり返す。雨の降る様を両手の指で表わしたものである。

操る 操り人形の糸を持つ心得で、交互に上下に操る両手の運動。

怪しむ 五指の指頭を上にし、掌を左に向けた右手の人差指を口唇に十字にあてがうと同時に、他の四指を折り畳み、小首をかしげ考える表情。「不思議」の手まね更に五指の指頭を集めた手で空間に？を書く。

過ち 間違ひ——悪るかった（御免御免）
謝る 悪い——御免なさい。

嵐 風——雨

争う (1) 両手の人差指を剣になぞらえて、打ち合わせる指の運動。「剣撃」「戦争」「闘争」の手まねともなる。

(2) 両手の人差指を一文字形に横にして、互いに指頭の先を向かい合わせ、或る間隔を置いて交互に槍で突き合うような指の運動。「口論」「論争」「議論」の手まねともなる。

改まる **改める** 五指の指頭を前方にさし、掌を上に向けた左右両手を接近させて腕を